

廃炉プロセス 「PCV/RPV/建屋の解体」

検討対象 「現状把握」

課題 「解体対象物の性状・物量の把握」

ニーズ

1. 解体物の性状、解体物の量を把握したい。

PCV/RPV/建屋の解体：【長期 1】

望ましい現状とその理由

- 解体廃棄物として、どのような性状の廃棄物がどの程度の量発生するのかを把握することが望まれる。

理想と現実のギャップ／解決すべき課題

- どのような方法・手順で解体を実施するか検討されていない。また、解体方法・手順は炉内・建屋内の汚染状況に大きく影響を受けるため、現時点では解体物の性状・量には大きな不確かさが伴う。
- 課題番号：解体 101 と一体となった解決が望まれる。

（参考）関連する研究課題

実施されている研究課題

- 課題解決型廃炉研究プログラム・一般「溶脱による変質を考慮した汚染コンクリート廃棄物の合理的処理・処分の検討」

検討されている研究課題

特になし

関連する課題

- 解体-202 「 $\alpha\beta\gamma$ 分別基準の設定」
- 解体-203 「解体シナリオ・分別戦略の策定」
- 解体-204 「作業シーケンスの設定」
- 共-1 「遠隔技術」